

キャラ	セリフ・行動・曲	照明
	(2部開始五分前。緞帳は下がった状態) ブザー鳴る。	30%
アナウンス		//
	(2部開始時間) ブザー鳴る。	//
	緞帳上がる	//
アナウンス	「(緞帳上がるのと同時に) 本日は、空港のそばのテーマパーク、エアポートパークにご来場いただき、ありがとうございます。間もなく、なごすい航空301便、ロンドン行が離陸いたします。ぜひ屋上のロッジからご覧ください」	//
龍輝	緞帳が上がる前から待機。きょろきょろしている。 上手からの気配に気づき、下手側に隠れる。	//
昴&晴菜	上手から登場。中央あたりまでくる。	//
昴	「いいだろうこのロッジ！飛行機をこんな近くで見られるのもパパンのこだわりなのだよ！最高だろう晴菜！」	//
晴菜	「じゃーま」	//
昴	「君の好きな空についての色々な施設も、我が白鳥家の権威と財力によってたっぷりそろえられて…」	//
晴菜	「あーもう！飛行機見るの邪魔しないでよー！あっ、あれ最新のだ！かっこいいー！（上手側に行く）」	//
龍輝	昴の近くまで行く。	//
昴	「まあそんなこと言わずに」	//
龍輝	「(昴を下手に引っ張りながら) ハイハイハイハイ」	//
昴	「アレレレレレ」	//
龍輝	「(止まって) はい、恋愛下手すぎるわが友昴のためのお助けコーナー、はーじまーるよー！」	//
昴	「何してんのお前」	//
龍輝	「心配でついてきたの！」	//
昴	「ええ…」	//
龍輝	「そんな、こと、より！せっかく空が大好きな晴菜ちゃんと、こんな最高のスポットに来られたっていうのに、なんだ今のは？」	//
昴	「お、俺なりのアプローチだ！」	//
龍輝	「下手くそ！」	//
昴	「むう…」	//
龍輝	「お前…金と財力を自慢なんて昔の貴族じゃあるまいしなあ」	//
昴	「金と財力って一緒だよな」	//
龍輝	「このデートで彼女に告白したいんだろ？」	//
昴	「うん…こんな感じでは、ダメかな？」	//
龍輝	「ダメだな」	//
昴	「そんなあ…おしまいだあ…この世の終わりだあ…アルマゲドンだあ…」	//

龍輝	「お前、そんなにあの子のことが好きなのか…」	〃
昴	「…ん」	〃
龍輝	「…分かった。俺も一肌脱ぐよ」	〃
昴	「ホント!？」	〃
龍輝	「うん。まずは、そうだな…もう少しユーモアを交えて話すくらいのほうが印象はいいと思うぞ」	〃
昴	「ユーモアか、わかった！（彩霞のほうに走っていく）」	〃
龍輝	「おい、話はまだっ…！」	〃
昴	「晴菜！」	〃
晴菜	「？」	〃
昴	「航空機をこう食う気!？」	〃
龍輝	頭を抱える。	〃
晴菜	「…なーにそれ？（上手へ退場）」	〃
昴	「今のは航空機とこう、食う、気ってのをかけた面白い…待ってー！（上手へ退場）」	〃
龍輝	「はあ、上手くいくかなあ、このデート…。そういえば、なんでこの辺誰もいないんだ？」	〃
アナウンス	「なお、離陸の際、場所によっては強風が吹く可能性があるので、お気を付けください」	〃
龍輝	「え、場所によってはって、まさか!？」	〃
アナウンス	「そこです。では、5…！」	〃
	<b>サンダーバード、開始。</b>	曲の照明
アナウンス	「4…!3…!2…!1…！」	〃
龍輝	「うわああああ！！（下手へ退場）」	〃
アナウンス	「Thunderbirds are go!」	〃
		〃
	サンダーバード	〃
	曲終了。	30%
昴&龍輝	上手から登場。中央辺りまでくる。	〃
龍輝	「はあ…アルマゲドンだ…」	〃
<b>バンド</b>	<b>台詞が始ったらローテ</b>	
昴	「なに、空港が？」	〃
龍輝	「昴君の恋愛下手さが！」	〃
昴	「ご、ごめん…」	〃
龍輝	「そこで今回のお助けコーナーは、恋愛についての特別講師に来てもらいました！」	〃
昴	「え、講師って、どこ？」	〃

龍輝	「あそこ」	〃
メリー	上手から登場。	〃
昴	「え、え、え？今、この人空飛んでこなかった？」	〃
メリー	「特別講師のメリーポピンズさんです、拍手ー！」	〃
昴 & 龍輝	拍手	〃
龍輝	「昴、メリーさんからしっかり学んで、デートに生かすように！じゃ、俺はもっかい隠れてくるからー」	〃
昴	「え、ちょ…！」	〃
メリー	「さて、昴さん。おかけになって」	〃
降り番	上手から椅子を二人分持ってくる。	〃
昴	「あの一、この後俺、晴菜と空の見えるレストランってところに行くんだけど…（椅子に座る）」	〃
メリー	「大丈夫。彼女がお手洗いにしている間に、さっと終わらせますから」	〃
昴	「ならいいけど…」	〃
メリー	「じゃあ、早速レッスンを始めましょう。まずは…デートの時のふるまいから。自信はある？」	〃
昴	「ある、つもりだけど…」	〃
メリー	「よろしい。今からレストランに行くのよね。私を彼女だと思って、エスコートしてごらんなさい（立つ）」	〃
昴	「う、うん（立つ）」	〃
メリー	「まあ、良い景色」	〃
昴	「そうだろう！ここも我が白鳥家が建てた、日本で四番目に高い建造物だね、地平線の向こうまで丸見えなんだよ！はっはっは…！」	〃
メリー	「…聞いていた以上ね」	〃
昴	「…ダメだった…？」	〃
メリー	「後ろを見てごらんなさい」	〃
		100%
<b>バンド</b>	<b>手振りを付けながらブーイング</b>	〃
昴	「うわぁ」	30%
メリー	「いい？彼女は空が好きなんでしょう？それを楽しむ邪魔をしないこと」	〃
昴	「うーん…でもお、俺のことも好きになってほしいし…そもそも俺、空そんなに好きじゃないし」	〃
	<b>チムチムチェリー開始。</b>	曲の照明
メリー	「聞いて、昴さん。貴方が空を好きになる必要はないわ。ただ、彼女が好きなモノを尊重し、理解しようとなさい。そうして初めて、貴方のことも好きになってくれるかもしれないわ」	〃
昴	「ホント！？」	〃

メリー	「そうがめつかないの。落ち着いて、謙虚になさい。さあ、レッスンを続けるわよ」	〃
昴&メリー	上手に退場。	
		〃
	チムチムチェリー	〃
	曲終了	空の照明
昴&晴菜	上手から登場。椅子に座る。	〃
		〃
晴菜	「(立つ) あ〜美味しかったあ〜」	〃
<b>バンド</b>	<b>台詞が始まったらローテ</b>	
昴	「そうだね」	〃
晴菜	「それにしても、空の見えるレストランってこういうことだったのね」	〃
昴	「そうそう、ここも我が白鳥家の…！いけない、これじゃあさっきと一緒に…。237mの高さにあって、いつもより空が近くに見えると思うよ」	〃
晴菜	「なるほど〜。…何か昴、雰囲気変わった？」	〃
昴	「え？」	〃
晴菜	「前より落ち着いたような…」	〃
昴	「そ、そんなことないよ」	〃
晴菜	「そう？でも、こう空に囲まれてると、どこまでが床なのかよくわからな…(舞台の階段から落ちそうになる) うわっ！」	〃
昴	「(助ける) 危ない！」	〃
晴菜	「…あ、ありがとう」	〃
昴	「う、うん…。わあ…ほんと高くて…綺麗…」	〃
晴菜	「でしょ？空見るのって楽しいんだよ。帰り道とか上見ながら空綺麗だな〜って歩くの好きなんだけど、よく電柱が目の前に来たりするんだよね」	〃
昴	「…ホント、空好きなんだね」	〃
晴菜	「うん。晴れ空も好きだし、夕焼けとか、星空とかも好きだよ」	〃
昴	「星空…？」	〃
晴菜	「うん、星空。都会じゃあんまり見られないけどね」	〃
昴	「…見られるよ！」	〃
晴菜	「え？」	〃
昴	「今から連れてってあげる！目、つむってて！（晴菜を上手へ連れて行く）」	〃
晴菜	「ええ！？なにー！？」	〃
昴	「あ、みなさんも、俺が良いっていうまで、目瞑ってて。いいね！」	〃
<b>バンド</b>	<b>ライトを付ける。</b>	〃
昴&晴菜	舞台中央へ移動。	〃

降り番	椅子を片付ける	//
晴菜	「ねー、どこまで連れてくのー？」	
昴	「まだだよー。まだ開けちゃダメだからねー」	//
	<b>星に願いを、スタート。</b>	曲の 照明
晴菜	「まだダメなのー？」	//
昴	「よし、着いた！はい！みんな、目を開けていいよ！」	//
晴菜	「うわぁ…綺麗…」	//
昴	「今度新しくオープンする予定のプラネタリウムだよ。君が欲しいって言うなら、この星空は全部、君のものだ！」	//
晴菜	昴を隣へ引き寄せる。	//
昴	「え？」	//
晴菜	「ありがとう昴くん。でもね、私が欲しいのは星空じゃないの。ホントに欲しいのは、こうやって空と一緒に…」	//
昴	「晴菜…？」	//
晴菜	「さ、歩こっか。知らないでしょ、星のこと？教えてあげる」	//
昴&晴菜	上手へ退場。	//
		//
	星に願いを	//
	曲終了	30%
昴&晴菜	上手から登場。中央辺りまでくる。	//
昴	「星って面白いんだね。それに、すごく綺麗…」	//
晴菜	「でしょ？本物はもっと綺麗だよ？」	//
昴	「そうなんだろうなあ…」	//
晴菜	「一緒に見に行く？」	//
昴	「ああ…。え！？あっ、それは、つまり、え？」	//
ヴィブラ	蛍の光	//
晴菜	「あ、もうこんな時間！」	//
龍輝	下手からこっそり登場。	//
昴	「ああ、もう閉園の時間かぁ…」	//
晴菜	「そうだね…そろそろ帰らなきゃ…」	//
昴&晴菜	しばし沈黙	//
昴	「…晴菜！」	//
晴菜	「えっ、な、なに？」	//
龍輝	「あ、これは、まさか？」	//
昴	「あの…！俺と…！」	//
晴菜	「…」	//
昴	「もう一個どっか行こう！」	//

バンド	「ええええ！！??」「なんだそりゃあ！！」「意気地なし！！」	100%
バンド	色々昴への文句を言いながら解散しながらローテ開始。	30%
晴菜	「…なんか、すごい声聞こえたけど…」	//
昴	「ハ、ハハ…なんだろうね…」	//
晴菜	「…あ、最後ね、私アレ乗りたい！あの一、ジェットコースターじゃないけど、椅子が浮くアトラクション！」	//
昴	「ああ、飛行のファンタジー？速くて怖いよアレ」	//
晴菜	「大丈夫大丈夫！さ、行こう！」	//
昴	「うん！」	//
晴菜	上手の方へ。	//
龍輝	昴を下手側へ引っ張る。	//
龍輝	「おいおいおいおいおい」	//
昴	「なにになになになに」	//
龍輝	「あの流れで告白しないと。まあ意気地のない男だよ」	//
昴	「ま、まあ、あの、後で、ちゃんとやるから」	//
龍輝	「あんたそう言っていつもやらないんだから！」	//
昴	「お母さんかお前は！分かったよ！その…帰るまでには…」	//
メリー	下手から登場。	//
龍輝	「よろしい。せっかくだからメリーさんからもアドバイスを頂きましょうか」	//
昴	「あ、メリーさん！色々、お世話になりました」	//
メリー	「うん、ちゃんと見てたわ。大丈夫、上手くいきそうじゃない。だからね昴さん。あとは…勢い！」	//
昴	「ええ、急にアドバイス雑になりましたね。もうちょっと深いお言葉を頂けるものかと…」	//
メリー&龍輝	「勢い！」	//
昴	「はい、行ってきまーす」	//
昴	上手の方へ。	//
メリー&龍輝	下手へ退場。	//
		//
スタッフ	上手から登場。	//
スタッフ	「みなさん、エアポートパーク最大のジェットコースター、飛行のファンタジーへようこそ！このアトラクションは高速で飛行する空飛ぶジェットコースターに乗って、さまざまな映画のワンシーンを体験するアトラクションです」	//
スタッフ	「座席におかけになりましたら、セーフティーバーをお腹までしっかり降ろしてください」	//

バンド	<b>セーフティーバーを下す仕草</b>	//
昴	「ド、ドキドキするね…」	//
晴菜	「う、うん…」	//
昴	「あ、あの…」	//
スタッフ	「安全のため、座席から手や身体を投げ出さないようにしてくださいね」	//
昴	「ハイ、スイマセン！」	//
晴菜	「え、なに？」	//
昴	「いや、なにもー…」	//
晴菜	「…あのね」	//
昴	「うん」	//
晴菜	「今度はね、あのー、星空見に行くのとか、どう？」	//
昴	「え、どう、って…」	//
晴菜	「だから、そのー、次の、デート…」	//
スタッフ	「では、発進します！」	//
昴	「え！？あの、もっかい！もっかい言って！」	//
	<b>飛行のファンタジー開始。</b>	曲の 照明
スタッフ	「いってらっしゃーい！」	//
スタッフ	二人を上手へ吹っ飛ばす。	//
昴	「うーわあああ！！！」	//
スタッフ	上手へ退場。	//
		//
	飛行のファンタジー	//
		//
	曲終了。	100%
	<b>サンダーバード開始。</b>	//
昴&晴菜	上手から登場。中央で礼。	//
それ以外	上手から登場。中央で礼。	//
全員	中央で礼。	//
	緞帳閉まる。	//